

第2回広陵町総合計画審議会 議事要旨

■ 開催日時

令和3年10月4日（月） 午後3時00分から5時25分まで

■ 開催場所

広陵町役場3階 大会議室

■ 出席者

<委員>

窪田会長、清水副会長、鈴木委員、乾委員、松村委員、藤山委員、古田委員、植村委員、竹田委員、西岡委員、山下委員
（欠席）寺本委員

<事務局>

松井副町長、奥田企画部長、芝企画政策課長、植村企画政策課係長、芦原企画政策課担当

■ 次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議案
（1）基本目標の修正案について（資料1）
（2）まちの将来像について（資料2）
（3）次期総合計画（基本計画素案）について（資料3）
- 4 その他（次回のスケジュール等）
- 5 閉会

<配布資料>

資料1 基本目標の修正案について
資料2 まちの将来像（案）
資料3 次期総合計画（基本計画素案）
参考 まちの将来像（案）について

■ 議事内容

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議案

(1) 基本目標の修正案について (資料1)

(資料1に基づき事務局が説明)

(議案1「基本目標の修正案について」: 承認)

(2) まちの将来像について (資料2)

(資料2に基づき事務局が説明)

会長

- ・この将来像のフレーズを今後どのように活用することを想定しているのか。

事務局

- ・まずは、総合計画冊子への掲載をはじめ、このフレーズを、1人でも多くの方に知ってもらう必要があると考え、例えば、町の名刺への掲載などを行う。

会長

- ・この案について、斬新であることは間違いない。よくあるパターンとしては、海辺に行くと、海に関して表現されていたり、海のない地域へ行くと、森が輝いたりするパターンがよくある中で、今回の案は新しいフレーズだと思う。

委員

- ・人それぞれ思い・考え・置かれている状況が違うことから、「幸せ」というフレーズではなく、「Happy」と英語表記することにより、さまざまな見方を示すことができ、それぞれ自分で「Happy」の定義を考えられるのではないかと思う。

委員

- ・町内にはいろんな年齢の人、家庭、仕事を持っている人がいる。色んな方向から見ても、「be Happy」はみんなに当てはまると思う。
- ・この総合計画案は、Happyになれるかどうか、を基準に考えたらいいのかなと思う。

(議案2「まちの将来像について」: 承認)

(3) 次期総合計画（基本計画素案）について（資料3）

【基本目標1】自然と人が調和したまち

（資料3のP3～14に基づき事務局が説明）

委員

- ・「馬見丘陵や葛城川など本町を特徴づけている骨格的な水と緑の保全・活用を積極的に図ります。」とあるが、その中に「高田川」とか、ほかの川が抜けているのは何か理由があるのか。

事務局

- ・こちらの文章は、都市計画マスタープランから引用したものとなっており、代表的な河川を記載しているが、ご意見のとおり、追記で補足する。

委員

- ・P11では、「し尿等処理人口（浄化槽）」を減らす方向性が示されている。行政として、下水道の整備を進めなければ、これを減らすことはできない。既存の住宅も新築住宅もすべてを対象に下水を通すのか。

事務局

- ・既存の住宅と新築の住宅の2パターンの見方があるため、誤解のないよう、明示する。

委員

- ・浄化槽を無くしていく取組みはどのようにするのか、古い家の改善策をどのようにするのかを考えるべきではないか。

事務局

- ・P21にあるとおり、人口普及率を向上させる指標設定としている。このことから、既存の地域にも整備していくとご理解いただきたい。

会長

- ・指標は成果を測るためのものである。ミスリーディングにならないようにしなければならない。

委員

- ・目標値を設定する以上は、それを達成するための手段が重要である。
- ・財政的に耐えていけるかどうかも並行して考えるべき、目標を達成するための努力が大切である。

会長

- ・公園の数や整備量は、現状を維持していくという考え方でよいのか。

委員

- ・公園の配置図や下水道の整備状況図といった地図があった方が分かりやすい。

会長

- ・指標は、なるべく簡単に測定できるものにした方がよい。

委員

- ・町民一人当たりの面積を上向きとあるが、公園は増やすのか。

- ・公園の面積も重要かもしれないが、きれいなトイレの設置や手を洗うことが出来る環境がある方が個人的には嬉しい。

会長

- ・指標設定は難しい。設定に当たっては、なるべく簡単な指標とすべきである。
- ・人口が減ると町民一人当たりの公園面積は増えるため、必然的に達成してしまうことから、再考の余地あり。
- ・国交省では、公園の指標として経済効果を指標に設定している例もある（難しいが）。
- ・どのようなやり方で美化活動をすすめるのかを考える必要がある。

委員

- ・公園は綺麗だが、公園周辺が汚い。特に馬見丘陵公園の北エリアから河合町にかけてごみが落ちている状況である。原因としては、公園内にごみを捨てる場所がないのが問題ではないか。
- ・公園周辺のごみの問題は、行政が対処するのか、地元が協力してするのか、を決めなければならないと思う。

会長

- ・今の委員のご指摘のとおり、体制づくりというのも重要課題と受け止めなければならない。

副会長

- ・住民がゴミ拾いをしても何の評価もされない、知られない事にもどかしさがあるのではないか。
- ・目標と展開はなんとなくリンクしているが、まちの状態を表す指標は違和感がある。将来の目的を示すための指標が適切か要検討。
- ・例えば、1-1は公園の維持管理と緑化の推進の内容にも関わらず、まちの状態指標として、住民一人当たりの面積が設定されていて不自然に思う。また、日常的に公園を利用する人が設定されているが、そもそも公園を利用する人は広陵町民のみではなく、町外の方も利用している現状であることを考えると、評価方法が住民アンケートでよいのか、という疑問が残る。
- ・すべての施策に対する設定されている指標に関して、自治基本条例も制定されたことを考え、住民が評価される指標設定をすべきではないか。
- ・例えば、1-1展開方向1公園・緑地の適正な維持管理の推進では、現在記載されている手段のみならず、一緒に、住民が参画・協働で点検管理や清掃などをするという内容もあれば良いのではないか。
- ・1-2の不法投棄について、手段と指標をリンクさせ、手段の成果を図る必要がある。例えば、ZEHであれば、その指標はない、住民のがんばる成果を出せるような指標設定も必要ではないか。

事務局

- ・P5については、内部で検討を進める。また、住民の指標も持ち合わせがあれば、検討する。

会長

- ・環境保全の推進と環境衛生の充実を比較すると、環境保全が弱いように感じる。また、どちらもカーボンニュートラルの内容になっており、2個の施策に紛れ込んでいる現状である。カーボンニュートラルを単独で出すことも検討すべきだと思う。

委員

- ・ごみの問題、平成17年から違反広告物を各団体がローテーションで管理してきたが、今では違反広告物はほとんど無くなった。広陵町自体、ごみや違反広告物に関して、きれいになっていると考える。

(2)【基本目標2】生活基盤が充実したまち

(資料3のP15~26に基づき事務局が説明)

委員

- ・良質な住宅環境の維持形成、抑制するとあるが、空き家は所有者の高齢化、施設への入所等のいろいろな理由で、空き家が増える原因があると考え。まずは、使える空き家のストック（リストアップ）により、移住者や使いたい人へ提案できるような制度が必要ではないか。また、このようなことを計画に記載する必要があるのではないか。

事務局

- ・P20の指標設定にもあるとおり、空き家コンシェルジュを活用して民間事業者の知恵を拝借しているところではある。
- ・使える空き家を流通させるための仕組み作りについて、担当課と協議する。

委員

- ・P24には、高齢者65歳以上の運転免許自主返納者とあるが、65歳という基準は若すぎると思う。
- ・水道料金の回収率60.8%はかなり低いのではないか。

事務局

- ・計画に記載している水道料金の回収率は徴収率と違うものである。しかし、誤解を招くような表現であるため、記載表現を工夫する。

会長

- ・P15の2-1目標、「人々と交流を深める」とある、施策6にも交流がある。整理してはどうか。

副会長

- ・基本目標1と同じく、課題と手段と指標がバラバラである。再考すべき。
- ・P18のシビックプライドは、郷土愛だけではなく、愛着を持って、誇りに思っ、さらに自らの行動に促すことという意味がある。現段階では、記載内容ではこの意味に当てはまらないと考えるので、シビックプライドの文言に関しては要検討。

会長

- ・住環境とシビックプライドは似て非なるものと思う。
- ・保全と形成とあるが、形成して保全であるのか。指標をみると何を目指しているのかわかりにくいので、住宅に関する指標にすべきではないか。

委員

- ・P26、広陵元気号はまだ増やせるのでは、史跡巡りなども組み込んだり、運行方法は随時変えるべきではないか。

会長

- ・事故0の指標は不必要と思う。0で当たり前である指標はいらぬのではないか。

委員

- ・良好な住宅環境＝耐震化率ではない、その他の指標も考えられる。

会長

- ・良好な住環境を表す指標はたくさんある。
- ・上下水道の強靱化について、強靱化という言葉が本当にふさわしいのか検討の余地あり。

委員

- ・空き家は全国問題となっている。持ち主が分からない空き家、権利関係が複雑な空き家など、持ち主へのアプローチについて具体的に記載する必要がある。また、所有者が空き家にしない等の周知徹底も必要である。
- ・箸尾準工業地域について、準工業地域のニーズは非常にあると考える。立地と人の移動が広陵町は難しい。
- ・指標として、企業数ではなく、労働者（雇用者）数を設定してみてもどうか。
- ・企業と準工等の地域がマッチングできるシステムも必要と考える。

事務局

- ・納税通知書への直接的なアプローチなどを考える。
- ・箸尾準工業地域については、現状は応募があふれている状況である。マッチングシステムについては担当課と検討する。

（3）【基本目標3】次世代を担う子どもが輝けるまち

（資料3のP27～37に基づき事務局が説明）

委員

- ・3-1学童について、保育園の預かり時間と学童の預かり時間が全然違う。「質の高い」とするならば、子育て拠点数を増やすことも重要だが、預かり時間を延長してほしいと考える。

副会長

- ・預かり児童数は今後増えていくことが予測されることから、教室数やスタッフ数の確保が重要ではないか。
- ・病後児保育は3か所で足りているのか。現状が記載されていない。
- ・3-1の「子ども」とは何歳までを指すのか不明確。青少年とかぶっている内容が無いかが要確認。
- ・展開方向3の虐待については、そもそも起こさせないことが大切である。親に対する施策が必要ではないか。

会長

- ・基本目標の設定は良いと思う。しかし、タイトルに「輝ける」とあるが、その部分の内容がないのではないか。
- ・子育ての支援の指標において、青少年健全育成の指標がアウトカム指標設定されている。しかし、設定されている指標は、たくさんの要因に左右されると思うので、指標と施策との関連性に違和感がある。このことから、実態をとらえるような指標が必要ではないか。
- ・3-3教育大綱と教育推進計画の整合がとれているか要確認。

委員

- ・障がい児の園児数は行政の努力では変わらない。園児が幸せになったかを考えられる指標に変更すべきではないか。
- ・中学校間の学力差の問題も心配である。

委員

- ・王寺町は住んでみたい町ランキングで全国有数であった。事務局は王寺町の良いところを研究し、良いところをマネしてみてもどうか。

事務局

- ・指標については、全体的に目標及び手段に対しての整合性を見直す。

—以 上—